

## 審 議 結 果

次の審議会を下記のとおり開催した。

- |             |   |
|-------------|---|
| 1. 会 議 名    | 第2回 益田市立学校整備計画審議会   |
| 2. 開催日時     | 平成30年9月7日(金) 16:30~18:30  |
| 3. 開催場所     | 益田市役所 分館 A会議室   |
| 4. 出席者      | 委 員：別紙名簿のとおり<br>*欠席 草野委員<br>事務局：武内 白、大畑伸幸、山本裕士、田原啓文、藤江 誠  |
| 5. 議 題      | *別紙次第のとおり   |
| 6. 公開・非公開の別 | 公開  |
| 7. 傍聴人の数    | 0名  |
| 8. 審議経過     |   |
| 開会          | *司会 山本教育総務課長  |
| ・山本教育総務課長   | ・それでは、ご案内しました時間となりましたので、只今から「第2回益田市立学校整備計画審議会」を開催いたします。皆様には、ご多用の中ご出席いただきましてありがとうございます。本日の司会進行を務めます教育総務課長の山本です。どうぞ宜しくお願い致します。先般、行いました第1回審議会におきましては、この審議会の目的や全体スケジュールの確認、議題では、教育長から諮問書の提出を受けた後、「これまでの再編計画と小中学校の状況説明」、「益田市における適正規模・適正配置」について、事務局から説明を申し上げ、それぞれの委員の皆様から様々なご意見をいただいたところです。委員の皆さんや作野会長のご意見から見えてくるものとしては、「子供の将来や地域の将来のあるべき姿を示していく中で、それに見合う学校のあるべき姿を見出していくこと」、将来の学校像となるべき益田スタイルを構築していくことだと感じたところです。本日は、第2回目ということで、前回は踏まえた審議会を行って行けたらと考えていますので、宜しくお願い致します。なお、前回、ご欠席でありました、美都中学校校長の大庭委員と翔陽高校校長の吉岡委員が本日は、出席されています。ここで一言ずつ自己紹介をいただけたらと思います。まず、大庭委員からお願いします。 |

### ※自己紹介

- |           |   |
|-----------|---|
| ・大庭委員     | ・現在勤務している学校は小規模校なのでその立場で発言できたらと思います。  |
| ・吉岡委員     | ・小中学校で学びが進んで高等学校の視点から小中学校にはこのような制度がいいのではという視点から発言したいと思います。  |
| ・山本教育総務課長 | ・ありがとうございました。そうしますと、本日の会議も市が定めています益田市立学校整備計画審議会規則により進めます。本審議会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができません。本日は草野委員が欠席で委員11名中10名が出席しておられますので、会議が成立することを宣言します。また、前もって資料としてお配りしております、「益田市審議会等の会 |

議公開等運営に関する規定」第5条に、「会議の公開・非公開の決定は、審議会等の長が当該審議会に諮り行うものとする。」とあります。この後会長にお諮りいただければと思いますので、よろしく願いいたします。なお、本日の傍聴希望者はいらっしゃいませんのでお知らせします。

会長あいさつ

- ・ 作野会長
  - ・ 前回からあまり時間が空いていませんが2回目の審議会ということでご検討いただければと思います。私、この間に奥出雲町の再編に関する保護者の皆さまの勉強会、鳥取県の高等学校の在り方、小規模校の在り方について一緒に検討しているところです。いろいろな地域がそれぞれの状況で検討していると思います。いずれにしても、益田市は益田市のやり方でやっていくのがあり方だと思っております。ご検討いただき、より多くの方に納得いただけるような案が出せればと思っておりますのでよろしくお願いします。
- ・ 山本教育総務課長
  - ・ ありがとうございます。では、会議の進行を作野会長にお渡しします。作野会長様、よろしく願いいたします。

議事

- ・ 会 長
    - ・ 会 長
      - ・ 田原推進室長
        - ・ 会 長
          - ・ 一同
            - ・ 会 長
              - ・ 田原推進室長
                - ・ 会 長
  - ・ 田原推進室長
    - ・ 田原推進室長
  - ・ 会 長
    - ・ 田原推進室長
  - ・ 田原推進室長
    - ・ 田原推進室長
  - ・ 会 長
    - ・ 田原推進室長
- \*会の公開、非公開について
- ・ 会 長
    - ・ 田原推進室長
      - ・ 会 長
        - ・ 一同
          - ・ 会 長
            - ・ 田原推進室長
              - ・ 会 長
- では、先ほど山本課長からもありました、会議の公開・非公開の決定を皆さんにお諮りしたいと思います。これに関して事務局から説明等ございますか。
- ・ 田原推進室長
    - ・ 田原推進室長
- まず、審議会を公開することは、透明かつ公正な会議の運営を図ること、市民の市政に対する理解を深めること、開かれた市政の実現を一層推進すること、などが目的として挙げられます。また、審議会を非公開とするときは、その理由を明らかにする必要があります。非公開とする際の理由としては、個人等を特定する情報が含まれている事項について審議等を行う会議であること、公開することにより、公正、円滑な審議等が著しく阻害され、会議の目的が達成されないと認められるとき、などがあります。これらを基に決定をしていただくこととなります。以上です。
- ・ 会 長
    - ・ 田原推進室長
      - ・ 会 長
        - ・ 一同
          - ・ 会 長
            - ・ 田原推進室長
              - ・ 会 長
- 「益田市審議会等の会議公開等運営に関する規定」により会の公開、非公開はこの場で決定することとなります。ただいま事務局から公開・非公開の決定に関して説明がありましたが、今回の会議では、個人等を特定する情報は含まれていないと思っております。また、委員の皆様方の発言は、それぞれのお立場からの発言であるとしても、将来的な益田市全体をお考えの上での発言であると思っておりますことから、公開することで、公正、円滑な審議等が著しく阻害されることもないと考えております。会長としては公開してよろしいと考えております。委員の皆様、いかがでしょうか。
- ・ 一同
    - ・ 会 長
      - ・ 田原推進室長
        - ・ 会 長
- 異議なし
- ・ 会 長
    - ・ 田原推進室長
      - ・ 会 長
- それでは、本日は傍聴の方はいらっしゃいませんが、次回から希望者があった場合は公開を行うとしたいと思います。事務局はよろしいでしょうか。
- ・ 田原推進室長
    - ・ 田原推進室長
- ありがとうございます。
- ・ 会 長
    - ・ 田原推進室長
      - ・ 会 長
- それでは議事に入りたいと思います。基本的な考え方の説明の後、小学校、中学校別に委員の皆さまからご意見をいただきたいと思っております。今回の意見が答

申の基礎になると考えておりますのでしっかりと議論をしていただければと思います。事務局のほうから説明をお願いします。

・ 田原推進室長

(1) 「学校再編（適正規模・適正配置）に関する基本的な考え方」について説明

【資料 1-1・1-2・1-3】

考え方として、「小学生は地域で育て、中学生はより多くの同年代の中での育ちを促す」をキーワードとして進めていけたらと考えている。これを益田スタイルとして進めていければと考えており、小・中学校それぞれの考え方についてはこの後説明していきたい。

・ 会 長

・ ただいまの説明は、現状の認識や国の方針等の事実関係を確認する部分と、益田市における適正規模、適正配置を検討することの二つの部分に分かれると思う。とりあえず前半のところ、文部科学省の方針、中央教育審議会答申が出ているがこのあたりから質問をお願いしたい。前回は、全委員から発言をいただいた。前回欠席されたお二人からそれぞれのお考えや学校の置かれた状況などについて先にご発言願いたい。

・ 大庭委員

・ 中学校に勤務しているが、中学生は多くの同年代の中で過ごすことは必要と考えている。社会性、多様性などを養うことがあるが、多様性はいろいろ自分と違う人と触れ合うことは絶対に欠かせないことである。美都中は全校 28 人の小規模校で、子どもたちはそれなりに満足しながら生活していると思うが、それを見ながら我々が感じる物足りなさ、この子たちに必要なものが有ると感じている。それは人現関係の摩擦や嫌なことをどう自分たちで解決していくか、それによってどう整理をしていくか、そこが、実際に現場にいても感じるようなところが有る。私の学校と同じような規模の学校の校長とよく学校のテーマについて話をするが、よく「鍛える」という言葉を使っている。私もテーマに入れているが、「鍛える」とは、思いとして人との関わりの中で人間としてどう成長していくかという部分を鍛えて成長させたいという気持ちが少なからず入っている。今は小さい学校なりに、地域の方に支援していただいたり教育内容を工夫したりし、子どもたちが満足しながらできるだけスムーズに成長していけるように、それと、厳しさや苦しさをどのように解決するかをこちらからできるだけ与えながらやっていきたいと考えている。しかし、こちらでは手を加えられない部分もある。それは、日常的にたくさんの生徒と一緒に暮らしていないことである。美都中も交流学习を進めているが、それは行事などワンショットで、いい部分しか見ることができない。本当に望むのは、いい部分の交流だけでなく日常的に一緒に生活し、嫌な部分とかを取り込みながら、人間関係を築いたり、このことは距離を置こうとか調整することができる力を付けたいと取り組んでいるがなかなかできない。授業や部活動にも感じるようなところが有る。自分は英語の教員だが、ごく少ない生徒のなかで新学習指導要領の実施に向かっていく。その中に、「コミュニケーション能力」が以前から言われているが、「話す活動」が「やりとり」と「発表」の二つに分かれている。それは、「やりとり」という部分をもっと重要視し、ペアなどで活動しても広がりが見えな

いので工夫しながら進めている状況である。美都中は三つの部活しかないのに、野球やサッカーなどの部活が有る学校へ進むという状況も有る。その中で、美都中へ来た子どもたちはしっかりやっているが広がりやそこで鍛える環境が不十分である。一所懸命教師も子どももやっているが人数の問題も有ると感じている。

- ・吉岡委員
  - ・私は高等学校に三十数年勤務しているが、その視点からお話をしたい。生徒の人との関わりの質と量が落ちているので、いろいろな形で問題が顕在化している。高等学校としては、できるだけ卒業して欲しいので、かなり小さな課題からチームになって子どもたちを支援している。今までは「ちょっとしたことは自分で解決しろ」の形であったが今はそのような状況で、できるだけ生徒に声掛けをして進めるので教員の時間がかなりとられる状況である。それは、生まれてから高等学校に入学するまでの段階で人との関わりの質と量がかかなり減っていることに起因していると考えている。小学校は地域の方が一所懸命入って子どもたちと話をしてお爺さん、お婆さん、おじさんやおばさん、おねえさんやおにいさんなど大人が関わって育てていく。中学校は、同年代の中でしっかり関わって高校に入ってくると質と量の関りが保障されると思う。本市の義務教育の考え方が有るが、小学校は地域の中で育ち中学校はより多くの同年代の中での育ちを目指すのがいいかなと感じている。
- ・会長
  - ・二人の委員に前回に引き続きご意見をいただきました。かなり新しいことや方針も出ているので委員の皆さまにはご質問やご意見をいただきたい。どのような観点からでも構わない。大切なことを決めようとしているのでご発言をいただきたい。
- ・委員
  - ・質問からですが、3ページの四角囲いの「【中学校】1学年複数クラス（36名以上）の確保を目指し、その方向性を検討する。」と有るが、なるほどと思う反面、それで何をするのかと思う部分もある。この辺りの思いを聞かせていただきたい。
- ・田原推進室長
  - ・この後で小学校、中学校について説明したい。
- ・会長
  - ・とりあえず議論を整理する意味で、2ページの3までのところをお願いしたい。中学校について質問があったが後でお願いしたい。
- ・委員
  - ・通学距離について、バスやJRを使う場合、経費は個人負担が前提か。
- ・田原推進室長
  - ・現計画でいくと、再編によって生じる新たな負担はないようにしているので、基本的に新たな負担部分、現に通っている学校から新しい学校までの部分であるので、負担を生じさせないように考えているし、今後もその方向でいく。
- ・大畑推進監
  - ・国の基準が小学校4km、中学校6kmで通学の補助を出しているの、距離が延びるならば自転車なりバス代に補助を出している。
- ・委員
  - ・例えば、バスが通っていない地区、歩いて通うことができない距離についてはスクールバスを出すのか。
- ・大畑推進監
  - ・公共交通機関に益田市も補助を出しているの、それを活用するのが大前提である。路線や時間帯がない所は別に協議することになる。中学生なら6kmは自

転車で通えるし、小学生なら4kmは歩いて通えるというのが共通の認識であると思う。それを超える場合について、例えば西益田小や高津小の児童は公共交通機関を使っている。それから先は、実態によって個別対応になると思う。

- ・ 会 長
  - ・ 今の点は非常に大事で、児童生徒が利用することによって公共交通機関が多様に考えられ守ることもつながる。ただし、これについては公共交通会議で相当入念な議論が必要で、そうなった場合は個別に深い議論がなされる。既存事業者のマイナスにならないようかなり配慮するので、そのような実態を知っていただきたい。答申の中身、四角囲いの中についてもご意見をいただきたい。
- ・ 委 員
  - ・ 益田市が抱えている課題の中に、市内20地区を単位とする地域自治組織を中心とした「地域づくり」と、「ひとづくり」についてある。資料1-3の地図を見ると、その20地域の中に小学校がある地域とない地域がある。合わせて、「つろうて子育て協議会」もある。前回、説明のあった豊川地区の「つろうて子育て協議会」はまさに地域自治組織と連携したものとする考え、そして、「つろうて子育て協議会」と合体したものもある。そこら辺りの整理の仕方など現時点でのお考えがあればお聞かせ願いたい。
- ・ 大畑推進監
  - ・ 最初作ったのは東陽中校区だった。以前は、安田小、種小、北仙道小、東陽中があって、平成12年ぐらいから東陽中校区で原型を作った。それが原型で、県の方針も中学校校区であったが、この4~5年、小学校校区、地域自治組織が関わって地域で子どもを支えあったり自分たちで考える方向にシフトしていったりしている。中学校校区でまとまっているが公民館単位できちんと集まっていたころ、中学校校区はネットワーク的にそこまででない形にしていこうと、基本的には小学校校区に力を入れていくよう公民館と社会教育課で動き始めている。小学校、公民館単位でのところでやっていくよう整理し始めた。
- ・ 会 長
  - ・ そのうえで意見がございましたらお願いします。
- ・ 委 員
  - ・ 意見ではないが、「つろうて子育て協議会」と「地域自治組織」の関係はどのようなイメージか。
- ・ 大畑推進監
  - ・ 既にできている組織の中のどの部署がそれを担当するかで困っている。また、「つろうて子育て協議会」は大事なものなので協働しながらやろうというところがあった。豊川地区のように既に立ち上がっているところは一部会がそのまま「つろうて子育て協議会」になっている。「つろうて子育て協議会」が「地域自治組織」の一つの部会のような形になればいいと思う。先にできたところは、その扱いに苦労しているところ、徐々に合体しているところがある。いいように進めばと思っているが、入り口の部分でうまくいっていない地区は活動ができていない。
- ・ 委 員
  - ・ 考え方としては、それぞれの地域の「地域自治組織」が中心に行っているのが地域に応じた望ましい子育ての在り方を議論しながら行っていくことか。
- ・ 大畑推進監
  - ・ 行政サイドを含む新しい支援のサイクルを行うという考え方の中で、地域にご理解いただき、自治組織にそうだねと言っていただけるような流れにしている。自治組織の中に絶対入れてくれと言えないので時間がかかる。

- ・ 会 長
  - ・ そのような意味では、統合前の小学校と統合していない小学校があるが、その延長上に自治組織の想定される範囲と「つろうて子育て協議会」があると理解していただければいいのではないかと。そこには小学校はないが「つろうて子育て協議会」がある、小学校があるけど自治組織がないところがあるとすると、自治組織は徐々に作られているので分かり易い。今回、地図に落としてもらったのでかなり空間的に理解できる。他の点はないか。
- ・ 委 員
  - ・ 地域で子育てをしようとするときに教育委員会として地域の実情を見たとき、豊川のようにしておられる所もあるが、益田市として見たとき地域によって関りに温度差がみられる。確かにこれからやることにはなるが感覚的には教育委員会とすると地域が学校を育てていく土壌は地域自治組織が作るにしても進んでいるかの認識はどうか。
- ・ 大畑推進監
  - ・ 全国的に見ても学校に対する意識はかなり低いと思う。地域ぐるみで議論している地区は何か所もない。頑張っているなという市に行っても豊川みたいな所が何か所あるくらいだ。北仙道では、小学生だけでなく中学生も公民館に集まっていて平均しても高いと思うので、これが地域自治組織に好影響を与えると考えるので、下支えという部分では良いのではないかと。
- ・ 会 長
  - ・ 他の委員の皆さんいかがでしょうか。
- ・ 委 員
  - ・ 先ほどの推進監の発言は理想ではあるが、実際に連合自治会が抱える問題は、子育ての部分、高齢者の部分、鳥獣対策などいろいろあり、子育てだけに特化していけない。いろんな部分を含めてであるが地域自治ができることによって子どもたちを見る目もできるなど地域の方も変わってくる。その中で、子どもたちが将来地域に残って活動して欲しいという自治組織の活動になる。それが直接学校のことにならない自治会側のジレンマがある。本当は子どもたちのことを一番に考えればいいがどうしても連合自治会からすると高齢者のことが先に立ってしまうなど目先のものを解決することになり、地域自治組織として二番目、三番目の課題になりつつある。この場で話すと、目を向けなければいけないという気持ちにはなるがなかなか地域として支えづらいところもある。後、子ども会組織が段々なくなってきており、生徒の数が減ってくるとそれを支える保護者の数も減る。小規模校になればなるほど子どもたちへ目が行くことが減ってきている。できるだけそれがないようにして北仙道の例のように寺子屋を一緒にとり組みをしておられる地区もあるので、それを参考に学校の在り方も含め話ができればと考える。
- ・ 会 長
  - ・ 今の発言は非常に重要で、仕組みや構造は作ることはできるが、実際問題として、地域に力を付けてもらいたいのが背に腹は代えられない状況にある。極端に子どもの数が減ってくると地域がさらに衰退してくる。
- ・ 大畑推進監
  - ・ 目の前の課題が大きい小さいはあると思うが、子どもたちを何とかするのでなく子どもたちが地域に貢献した活動をすることで将来頑張れる子になって欲しい。子どもたちを主体的に関われる活動を公民館にお願いしている。子どもたちをなんとかしてやろうでなく子どもたちが貢献できる活動をやりたいと考え

- ている。
- ・ 会 長
    - ・ ここで方針を決めてしまうのではなく、説明を続けていただきたい。四角囲いについてもまた戻ってご意見をいただきたい。これで決定するのではなく、小学校を中心に話し合いを行い、続いて中学校についても話し合いを行いたい。
  - ・ 田原推進室長
    - 「①小学校について」説明【資料1-1・2-1・2-2】
  - ・ 会 長
    - ・ 小学校の置かれた状況と四角囲いで事務局として「このように行いたい」というところを説明された。議論の仕方だが、本日全てを決定するわけではないが3回の会で決めていくので、基本的な方針はここで練っていくことになる。忌憚のないご意見をお願いしたい。ご異論等含めてお願いしたい。また、最初の四角囲いについてもお願いしたい。中学校の説明をいただいた後でも構わない。
  - ・ 委 員
    - ・ 確認であるが、今年度の決めることはどのレベルのものまでなのか。例えば、四角囲いでいいならいいで今年度はOKなのか、もう少し深いところまで望むのか。
  - ・ 田原推進室長
    - ・ 四角囲いの中でキーワードをお示ししている。今回、3回の中でこの部分を決めていきたい。これ以上のところは来年度決めていきたい。
  - ・ 会 長
    - ・ 全体の資料で、小中学校再編計画と小中学校再編実施計画がある。ただし、再編計画といってもものすごいことが書いてあるのでなく、基本方針が述べられている。ただ、ここで述べられている内容はすごく重たいものであり私たちが決める、これが審議会である。
  - ・ 委 員
    - ・ 地域の実情と学校の実情を繋ぐにはこのままでは両者が頑張ってもパイプが繋がっていかない部分がある。何かしらやっていかなければいけないことがあるとしたら、具体論もセットにしないといけないのかなと思質問した。
  - ・ 大畑推進監
    - ・ 実際に学校と社会教育を結ぶ接点には人がいるだろうと思っている。その実証として豊川小の学校の中に社会教育コーディネーターを配置し、社会教育側の公民館主事と連携する中で地域での活動と学校での活動が一体的にでき始めた。行政としては人の存在は必要と感じている。鎌手中学校の統合に伴い、小学校への配置も要望されている。そのように地域と学校を結びつける方の存在が必要であるとの考えが広まっている。
  - ・ 会 長
    - ・ 仕組みの方針はできると思うので、次回に向けてそのような案は検討していく必要がある。
  - ・ 大畑推進監
    - ・ 必要があるとお感じいただくといい。政策に実際にコミュニティースクールを入れていることと一致するかなと思う。
  - ・ 委 員
    - ・ 安田小学校はいろいろな体験をさせていただく方がたくさんいらっしゃる。まず、いらっしゃることにびっくりした。田植えなどでも広いところを作ったり野菜作りでも指導にいらっしゃる。益田市ではどこの小学校もそのような状況か。
  - ・ 大畑推進監
    - ・ 安田がかなりやっておられる。島根県は平成17年から「ふるさと教育」を年間35時間、地域の「ひと・もの・こと」を入れた授業が課せられどこの小学校も取り組んでいる。地域によって濃度の差はあるが、安田のようにやっ

- る所はない。
- ・委員
    - ・浜田市から引っ越して来たので「益田はすごいな」とびっくりした。
  - ・委員
    - ・自分は豊川に住んでいるのであまり違和感がない。地域と学校は今の状況になる前からあった。
  - ・会長
    - ・そのようなやり方を他の地域でもやっていこうと方針で定める方向である。今までは実態としてあったものを正面きってやることで小さくても頑張る学校や地域づくりを作っていこうということである。
  - ・委員
    - ・豊川小と益田小が合わさって益田東中へ行くが、益田小の子どもの友だちと会うことがあるが、直感的に感じるのは、大人に対し不信感を持っているのか目を合わせてくれない。それをよく感じる。慣れたら心を開いてくれるが、そこに行くまで時間がかかる。大人を信用していない部分もあるのかなと感じている。豊川だと大人に対し不信感を持っていない。豊川の子は純粹すぎると言われたことがある。そのような面からどうかと感覚的であるが感じる部分がある。
    - ・学校規模による面からの話であった。両側面が想定される。
  - ・会長
    - ・「3. 益田市における適正規模、適正配置（学校再編）の考え方」としてあるのでこのような状況になっているが、大きい規模の保護者さんは全然議論に参加してないので、答申が出されても「自分には関係ない」となってしまう読まれないかもしれない。今話されていることは、大事なことだし益田市の教育の進む方向の部分がかかなりある。そうすると、「適正規模・適正配置」でいいのかなと思う。諮問は再編に関する考え方とあって、いろいろなことがあるのではないかとあれば、現実が教育の魅力化と言われているので、益田市の小学校教育の魅力化、中学校教育の魅力化に一步踏み込む。それが、地域と一緒にあった学校作りをするんだということになりできるかもしれない。そんなことも方向性として作りながら、「教育に関する大綱」、「教育ビジョン」と流れが変わるのはおかしいが、適正規模を考えた場合、益田市の小学校はこうなるんだよというスタンスが一つはあったほうがいい。もしくは、本当に40年度の小学校の姿を見たとき、このまま子どもたちの悲鳴、保護者の悲鳴を考えると本当にいいのかと思う。そのことが小学校でも現実になったときに、何らかの指針をもっと地域の皆さんと保護者、子どもたちと一緒に考える。そのことを示唆しないと、10年スパンの計画で40年度の姿を見たとき、確かに地域も大事だが子どもたちが悲鳴を上げるのを防ぐのが行政の責任であると思う。
  - ・会長
    - ・ここで意見整理をしたい。いきなり適正規模・適正配置を書いているが、その手前でどのような子どもを育てるか、地域づくり人づくりはどうするのかの在り方を前提にしてと思っている。その原案があまり出ていないのでそこを出していただくということにしたい。後半に入る前に、小学校の規格がある中で、条件であるかもしれないが小学校は再編をしないというというごく重大な結論になる。ミニマムの規模をどうとらえるのか十分議論する必要がある。種の最後はどんな感じだったか。
  - ・委員
    - ・PTAに地域から「どうしたいか」と投げかけられ、自分たちの意見を言おう



よと話し合いの場を持った。PTAの方向性を話すため、できるだけ夫婦で参加してもらい協議した。統合したいという保護者もあればできるだけ残して欲しいという保護者がいた。話をしていく中で、メリット、デメリットや、残すために自分たちができること、統合するために何ができるかの意見を集約し地域に返した。そのことにより、地域の方が保護者の意見を汲んでくれ、考えていただいた。決まる10年前は、猛反対で教育委員会がさらし者になるような状況であった。10年の月日が過ぎて考え方が変わったことと、保護者でない方が意見を言ってまとまらなかった。保護者としてきちんとした意見がないと難しい問題である。地域がどんなに頑張っても、4人兄弟がいる家族が引っ越していけば、一気に子どもは少なくなるので地域の維持ができなくなる。ここ3年で3家族が益田の中心部に移動された。地域づくりを頑張ろうと話をするのが保護者の意識がそれに向いていかない。統合の話をするための部分としては、保護者でしっかり意識を持ってもらうことが、地域と分かり合える部分であると思うのでそのようなことも分かって欲しい。

- ・ 委員
  - ・ 四角囲いに「地区が小学校の存続を望み、・・・」とあるが、これは益田市が一番考えていることか。もっともなことであり、これをいかにしていくかが、地域自治組織を立ち上げる時、子どもに関しては一番のことである。もちろん大人にとっても一番である。地域と学校、保護者、その他の組織がかみ合っ町が成立する。同じ向きを向いてみんなが努力しなければいけない。
- ・ 会長
  - ・ ここまで整理すると、益田市が学校の適正規模・適正配置を考えるうえで、学校教育、地域づくり、人づくりを三位一体で進めていく必要があることを確認することと、四角囲いにあるような小学校はできるだけ残そうという考え、三つ目に、そうはいつでも、小さすぎたりする場合には検討する余地があり、絶対統合しないと切り切る責任は持てない。基本的には残すが小さくなりすぎた場合は、話し合いを持つことで整理できると思う。小学校について、いったん置いて中学校の説明をお願いしたい。
- ・ 田原推進室長
  - 「②中学校について」説明【資料1-1・3-1・3-2】
- ・ 吉岡委員
  - 「データが語る子どもの実態」について説明【追加資料】
- ・ 田原推進室長
  - ・ 中学校のところで吉岡委員にお話をいただいたのは、今回提示した益田市の方向性をご検討いただければというところをお願いした。本市の義務教育の考え方を益田スタイルという形で示していればと考えている。
- ・ 会長
  - ・ 議長として、議論が的確に進むように整理させていただきたい。中学校のほうで考えていく上でより重大な決定を行うことになる。原案としては、「複数クラスの確保を目指す」とあり、いけないとは書いていない。その方向性を検討することもあり、二重三重にあるが、考え方として一番わかりやすいのが「小学生は地域で育て、中学生はより多くの同年代の中での育ちを促す」という部分で、中学校は統合、再編を促進するわけではないはやむを得ないことになる。大庭委員会からもあったように、中学校はやむを得ないと考えてよろしいか。今日の議論は非常に重要になるが決定することはないが方針は議論する。

- ・委員
  - ・先ほど話したような考えもあるが、実際に小規模校の中で育っていくことはいけないのかではなく、小さい学校では小さい学校なりのいい育ちができており効果も上がっている。その中に保護者や地域の方の支援が多く入り小ささをカバーしている。中学生が体験したり話を聞かせていただけることに幸せを感じている。もし、再編を行ったとき、地域の支援が薄れていくことになるとうとうなるという気がする。経営面、運営面にも関わってくる。
- ・委員
  - ・小学校の場合小規模のよさはあると思うが、ミニマムの線はどのようになるかの思いがある。一学級3人を割るところであっても、地域の皆さんが盛り立てれば教育効果が上がるのか。いくら地域の方が支えても3人の学級が6学級あると難しいと思う。そこは考えるべきである。
- ・会長
  - ・今の発言は小学校の数字で話されたが、ミニマムをどう捉えるかここで決めることはないが重要な議論になる。
- ・委員
  - ・四角囲いの中に「確保を目指す」のは望ましい状態で、「方向性を検討する。」とあるが、だれがどうするのが単純に分からない。確保は地域が目指せるのか、教育委員会が目指せるのか。どちらにもとれる難しい問題であるので難しい問題である。中学校については大変重みがあるのは理解しているが、理論が薄く感じる。全国の中学校の事例を見てみたが、小学校についてはあるが中学校については論点がどこにもない。小学校は地域と密接とあるので論点があるが、中学校は「多様性」や「周囲の子との接点を」など理解できる部分もあるが抜け落ちている論点もあるように思う。
- ・会長
  - ・前半と後半を分けて、前半はどのような意味か、主体は何かだが。
- ・田原推進室長
  - ・このように書いている前段のところでは前回資料の2-2の3枚目に1クラス当たりの児童・生徒数の資料があるのでご覧いただきたい。小学校、中学校の5年ごとの1クラス当たりの児童・生徒数で、1クラス当たり30名ぐらいいたのが23名ぐらいに減少した。このままで学校数行くと20名ぐらいになると予想される。1学年複数クラスを目指すとは(36名以上)と書いているのは、学校再編を進めていくしか方法がないと考えているところである。方向性という部分については、例えば中間あたりに学校を作るとか、新たな学校を作るとか、既存の学校をまとめるなどの方法はあるが、その方向性を検討していきたいということである。
- ・大畑推進監
  - ・35人では1クラスであるが36人になると2クラスになる。よって、36人いれば2クラスになるので最低でも36人を目指していることである。新しい学校を作るお金がないので今ある学校をまとめた方がいいというのが本音である。
- ・会長
  - ・ぼやかしてあるので分からないが、前段はそのような表現でいいが後段については表現も含めて検討いただきたい。本質的に他にもあるのではないかと。中学校が小規模だと不都合がいろいろあると思うがそれについてはどうか。基本的に、学校教育は学びと育ちなので、確かな学力である教科指導、領域の指導などが充実できないとか、育ちに関して部活動などの実質的に重要な部分なので多様な切り口があってもいいのかなと考える。育ち面だけを書いてある。

- ・大畑推進監
  - ・学校の経営上から考えると、教員配置の面で、できるだけ1教科複数の教員がいる学校規模でないと教員自体の質のアップに苦勞する。学校運営上苦勞する。特に中学校はそれが言える。
- ・委員
  - ・中学校は義務教育の最終段階というところが小学校との大きな差で、3年間を益田市としてどう捉えるかが、どのように学んで欲しいかが腑に落ちやすい。
- ・大畑推進監
  - ・乗り越えなければいけないことが、益田市教育委員会は今までは小学校、中学校を所管しているからでよかったが、島根県教育委員会では小学校、中学校、高校まで見据えましょうとしてきた。ある程度、高校という存在を明確に位置づけとおかないと、卒業してしまうからいいではいけない。市教委は市教委、県教委は県教委ではない時代になった。高等学校の存在を意識しながら、中学校はどうするかという視点で考えなければいけない。
- ・委員
  - ・高校に行く子もいるし社会に出る子もいる。もしかしたら、県外に出る子がいるかもしれない。この3年間をどう過ごすかである。
- ・委員
  - ・結局、皆さんと議論をする中で、学校再編を大上段に構えてやる時代ではないようなイメージがある。この議論の中では小規模校の話が出るが大規模校からすれば「関係ない」になってしまう。要は、小・中学生がそこで学習する場をどう作って、子どもたちが楽しく学習できたり運動できたりするのはどうしたらいいかをまとめていかないと、「再編計画です」、「地域です」と言っても地域の人はプレッシャーに感じる。そのような状況の中で、益田市が求める小学生像、高校までどう繋げていくかの部分で学校再編を考えないといけないし、ただ統合するだけの話し合いになってはいけない。
- ・会長
  - ・基本的にはそのような方向まとめる考えであり、私もそのつもりで来ている。しかし、その話があまり出てこないのがっくりしている。その方向で進めていかないと20地区あってこれでやっていくしかないが何とかなるのか。魂みたいな部分はいつ出るのか。それを出さないと、テクニカルな部分では皆さんの合意をいただけるが、最低限が来たときどのようにするか議論が多少要るがその手前の大上段に構える「益田だからこう育てられる」が小中ともに原案にない状況である。
- ・大畑推進監
  - ・益田が目指す姿、これから益田で育つ子どもたちが力を付けるためには、こんな環境が必要だと小学校、中学校に伝えながら次につなげていきたい。
- ・委員
  - ・小学校と中学校の違いは書かなければいけないと思う。今回、1学年複数学級目指すとなることと、地域で子どもたちを育てることは、議論が逆になる。益田市はこんな教育をするから、こんな学校づくりを目指します。だから、こんな規模が必要となり、自分の子どもの行く学校は全国から魅力を感じてやってきてそこで暮らして、精一杯活用し、それが共に学ぶ益田の子どもたちにとってプラスになるような環境がある。あるいは、県立学校との連携、中高の連携など益田市ならではのものを作る。島根県の中高一貫は残念ながら、連携型で小規模校しかやっていない。それを都市部でできるようなことができるなら、そのような学校を目指す。部活がないので行きたくないという発言もあつ

たが、もっと魅力的な部活ができるような規模の学校を作る。益田ならではの高津川を利用した中学校の部活を作ります、などの議論が欲しい。小学校は地域とともにやるが、中学校は痛みを感じてもらうが理想的な教育環境を作る、それを地域と一緒にやってそんな学校を作るからとなれば応援しようかとなる。

- ・ 会 長
  - ・ そのような話になるのではと思います私は来ている。そうでなかったら私が来る必要がない。今後のことだが、10月初めに皆さんに来ていただいて、協議して終わるといことになるが、この程度の議論で大丈夫か。申し訳ないが、このような形になって枠にはめられた状況では限界があって結局自分で作ることが多い。どうするのか。出すだけでも大変だと思うがどうするのか。
- ・ 田原推進室長
  - ・ 各委員から内容の肉付けの部分でのお話をいただいたが、益田市として方向性を示すことが大事であるとの発言であったと思う。今回の意見を整理し9月中にお示ししたい。それを確認いただく中で3回目の報告書の議論を行いたい。
- ・ 大畑推進監
  - ・ 先ほど委員からあったのは、益田市が考えているライフキャリア教育にあたり、保・養・小・中・高の柱の中に盛り込んでいる。中学校期において、子どもたち同士で小学校期で培った地域との活動を継続してその力を持って地域で活動してもらいたい。自ら作り上げる機会、時間があるだろうと子どもたちの姿を見て感じている。もっと地域に出て活動して欲しいがその前段の自分たちの中で社会を作る経験をさせたいというのが社会教育課の課題である。今行っているライフキャリア教育等も含めてどのような形の小学校像、中学校像、高校との連携を含めて整理したところをお示ししたい。
- ・ 会 長
  - ・ 整理すると、①そのような計画や指針があれば欄の外に示していただく。②それらを踏まえて根幹になる、益田で育てる子供像、学校像を示す。その後各論に入っただけければと思う。審議の回数であるが、3回としてやっているの、3回目で答申を出すのではなく、3回目でしっかり議論を行い、可能ならば会長、副会長、事務局と協議し決定する。中学校に限って言うと皆さんいかがでしょうか。自分としては、美都中、匹見中を念頭に置いて議論しないといけない気がするか皆さんどのようにお考えか。規模だけで言えば難しい。
- ・ 委 員
  - ・ 時代の流れなら、中山間地センターから出されている人口動態を見ると増減や転入促進、益田市の移住支援も厚くしますよと示されている。その実態をどうとらえるのか、益田市の姿勢を頭に入れながら考えるべきである。
- ・ 会 長
  - ・ これは宿題にするということで議事をもう少し進めたい。今、ここで大きく三つに分けて基本的な方針と小学校、中学校で議論いただいた。私のほうで整理すると、皆さんには目線は一定でいくつかの具体的課題、前提となる大きな課題を踏まえ審議いただいた。シナリオでは今回出た意見をまとめるとなっているがいいのか。次回はどのように進めていくかを確認しておきたい。事務局から説明をお願いしたい。
- ・ 田原推進室長
  - ・ 前回、今回といろいろな意見をいただいた。お示しできていなかった部分もご指摘があったので、次回は10月10日を予定しているが、9月中に踏まえた

方針を示したいと思っている。それを各委員にご覧いただき、さらにご意見をいただく中で10月10日を迎えられたらと思う。10月10日は当初の予定では答申の提出を予定していたが、9月に示すものが完全になればいいが、10月10日に再度ご議論いただき、先ほど会長が言われたようになればと思っている。まとめのものを再度示し、会長から答申をいただければと思う。

- ・ 会 長
    - ・ 3回目はしっかり議論する。その手前の段階で原案を皆さんにお示しするが、当日を待たずして意見を出していただきたい。それと、3回目が終わると集まってるの審議はできないが、意見があれば私のほうでまとめる方向で進めたい。もう一つ確認だが来年度になってから実際の計画を練っていくことになるが、皆さんよろしいか。他に確認したいこと、意見はないか。
  - ・ 一同
    - ・ なし
  - ・ 会 長
    - ・ 以上で議事を終わるが、本日の会は何かを決めたということでないが、次回はかなり決めないといけないことをご理解いただきたい。
9. その他
- ・ 山本教育総務課長
    - ・ 作野会長様、ありがとうございます。次に「4その他」ですが、委員の皆様から何かございますでしょうか。なければ事務局からお願いします。
  - ・ 田原推進室長
    - ・ 先ほども申しましたが、次回は10月10日水曜日となります。場所は第1回目と同様「本庁3階第1会議室」で16時から開催する予定としております。事務局による答申案をもとにご意見をいただければと思います。追って事務局から答申案についてお示しさせていただきますが、次回もどうぞよろしくお願いたします。本日はありがとうございました。

以上